

学びや

タイムスリップ

5年8月のことです。

ちに嵐山校と改称)が開

(明治21)年の2月、当

そうした頃、1888年

時の嵐山校にほど近い車
折神社に宮司としてやつ
てきたのが、文人として
名高い画家の富岡鉄斎で

した。

鐵斎は1836(天保7年、京都三条衣棚の法衣商の家に生まれました。若き日より数々の學問を修め、学者として道を歩み、神官も務めた人物です。また、書画もよく、無二の文人画家として多くの作品を残していました。

そんな鉄斎が地域の神社に着任したことを聞いたこの「魁星図」は嵯峨いた下嵯峨地域の代表は、鉄斎の所へ行き「学校に通う子どもたちへ絵を贈ってほしい」と頼みました。鉄斎は快諾し、嵐山校へ「魁星図」のついたてを贈りました。

魁星は北斗七星の第一星を指し、「魁」の字を表すように鬼が斗を持つ姿で絵画化されます。

京都市右京区の嵯峨地域に小学校が初めて出来たのは、1872(明治4年)です。

続いて翌年3月には、嵯峨の学校がいいよ活気にあふれてきています。

は、両校ともに新しい校舎が建ち、生徒数もだんだんと増え、20年代には

嵯峨校(のちに嵯峨校と改称)が開校し、天龍寺・水尾・校・柳鶯寺というお寺が村が連合して川端校(のた)です。

学業成就願い魁星描く



富岡鉄斎「魁星図」
(1888年頃、嵐山小蔵)

この「魁星図」は嵯峨校と嵐山校の統合により、長い間嵯峨校にありました。戦後嵐山校が再び独立してからは嵐山校の所蔵となり、今も伝わっています。鉄斎が描いた勉強の神様は約130年もの間、嵯峨地域の子どもたちを励まし続けました。

